

DSJ 治療計画のサイエンスとアート 感想用紙

【お名前】 (前川 芳徳)

【医院名/所属先】 (田村歯科医院)

▷セミナー全体の感想

3ヶ月間のセミナーを終えて、受講して良かった、そうしか思いませんでした。欲を言うなら、もっと長くして欲しかった。というのが本音です。しかし、そもそも受講するかどうかに関して迷いがありました。まずは第一期ということ、3ヶ月間ということ、治療計画に Art? という疑問があったからです。ただ、築山先生をはじめ土屋先生、木戸先生と、米国専門医で固められたメンバーに期待をして挑むことにしました。正直彼らから学ぶというより、自分は挑んでいくつもりでした。こう思うけど、どうだ? というスタンスで挑もうと思っていたのですが、根拠に裏付けされた知識と経験の差がありすぎて一蹴されました。ただ、彼らは決して上から目線で全否定はしませんでした。こういう科学的根拠で、根拠に乏しい場合はこういうコンセンサスになっているから、そして患者の状況を見て、こうする方がいいと思う。自分の意見の場合は、evidence はないけれど、経験から自分はこうした方が良いのではないかと思う。そういうアドバイスをしてくれます。まさに EBD (evidence based dentistry) のバランスを保ちながら、自然と行なっていくような姿勢をみせてくれました。自分ではやっているようでできていない、吸収すべき姿勢でした。

治療計画に Art? どういうことだ。木戸先生は lecture の中で、治療のゴールを見た目の美しさ、機能、快適さを回復し、良好な予後を得る。これを目標とすると言いました。彼は機能と良好な予後を考えるのは当然ながら、美しさも同じレベルで考えていました。ただ美しさを語るのではなく、科学的根拠に基づき、機能をしっかり回復したうえでの話。さらに美しさまで。それにより最初の診査からそれを踏まえた診査、診断となるわけです。機能だけを重視していた自分にとって、美しさも同じレベルで求めていくことに衝撃を受けたし、自分の姿勢を見直すきっかけになりました。土屋先生は機能という点で、常にフレキシブルに柔軟な姿勢をみせてくれました。原理原則に基づきながら、常に柔軟にその場その場の状況を把握して選択していく姿勢が本当に深かったです。保険診療にとらわれがちな GP の私達に、彼らはその呪縛から抜け出させてくれるようなアドバイスをしてくれたような気がします。彼らの柔軟かつ根拠に基づいた姿勢を、常に頭に自然と置いておけるような自分でありたいと思う。

そしてワークショップですが、楽しかったです。計画を立てる時に正解はないと思うのですが、根拠さえしっかりしていれば。何が楽しかったかという、毎度グループわけするので、毎回色々な先生とグループになり、専門分野、得意なものが違うので、色んな角度、色んな意見が出てきます。あれはワークショップでしたが、医療におけるあるべき姿なのではないかと感じていました。一つの症例に関して、様々な専門医、スタッフ、さらには患者も集まってああでもないこうでもない。ひとりで何もかもできるわけではないし、色々な意見、ディスカッションして、方向性を決めていく。ただ、自分の意見考えを言う場合は、なぜそうなのか、そう思うのか根拠が必要です。もっと自分自身を磨かなければとは思いました。もう一度受講したい。そう思わせてくれる場でした。また先生方と色々な話をできることを楽しみにしています。